

2018/05/02～04 第 30 回萩往還マラニック 250 キロ

奥野 孝

5月2日～4日、250キロの部昨年に続いての参加です

連休前半は好天だったのに、なぜか2日18時のスタートは雨の中、出走は515人で50人ずつのウェーブスタート。

第2チェックポイント旧油谷中学87キロで朝の5時。雨は止んだのですが、低気圧の影響で海岸沿いを突風が吹き荒れる。去年は日の出と共に気持ちの良い朝ランだったのにとぼやく。

海沿いのアップダウンを繰り返し、内陸の日置エイド131キロあたりから違和感のあった左膝がとうとう悲鳴をあげる。痛みで足が曲げられなくなり、平地でも歩くはめに。

145キロの湯本エイドではつい弱気になって、スタッフに宗頭文化センターからゴール行のバスの時刻についてたずねたりする。

152キロの仙崎エイドから左足が少し曲がるようになり、神経を膝に集中して1、2、1、2とリズムを刻むと、走っているのかわからないスピードだが、歩くより確実に進んでいる。

この状態をキープして第1目標の宗頭文化センター176キロへ19時40分着。ここで風呂へ入り、食事をとって体育館で仮眠。去年と同様熟睡できず、うつらうつらしながら30分後気合を入れて起き上がり、21時30分に出発する。

小走りできるようになった喜びもつかの間、途中眠気覚ましに飲んだコーヒーからお腹の調子がおかしくなり、文化センターでトイレをすましたところなのにお腹がごろごろ。188キロの三見駅エイドで冷や汗をかきながらトイレに駆け込む。完全にお腹をやられた。

195キロの玉江駅エイドでは温かいスープとパン2切れ食べるが、胃腸はむかむかして、体全体に力が入らなくなり歩くのが精一杯。207キロの虎が崎エイドで出たうどんは吐きそうになりながらも無理やりお腹にいれる。

215キロの松陰神社あたりから2日目の朝を迎えるが、このあたりからもう一つの問題が発生。文化センターではきかえた新品の滑り止め付靴下が足裏に擦れて、最初は小石でもはさまったような軽い痛みが、徐々に無視できない激痛に成長してきたのです。残り35キロはお腹と足裏と眠気との闘いでふらつきながら1歩1歩前進していたと思います。



4日の13時51分無事ゴール、43時間51分の長い旅でした。

ゴールに着いて完踏メダルをかけてくれたのは、なんと谷口さんこと谷やん。

彼は西表島で宿院さんや堀さんらと知り合ったランナーで、鯖のボランティアやKTC香住マラソンツアーにも、2年連続で参加しています。

昨年の萩往還がリタイアだっただけに、今年のラスト萩にかける意気込みは僕以上のものがあったと思います。しかし結果はリタイアで、その後スタッフとしてメダルをかけてもらう立場から、かけてあげる方へ。次々とゴールしてくるランナーに笑顔でメダルをかける姿には、思わず熱いものがこみ上げてきました。



この大会は平成元年からスタートし、今年平成30年の第30回にて終了。来年からは新元号となります。

参加Tシャツや、メダルには「ありがとう平成完踏」の文字が。平成を駆け抜けた萩往還大会でした。

夜を徹して大会を支えてくれた大会関係者、エイドスタッフ、食堂のおばちゃん、警備員のおじさん、私設エイドの面々、本当にお疲れ様でした、そしてありがとうございました。

トレラン練習会 ～ 音羽山縦走

奥野 孝

5月13日、100%雨の天気予報で集まったメンバーは堤さん、大森さん、全さん、早瀬さん、かなめくん、私の6名。

醍醐駅9時半スタート時点では怪しい空も、山へ入った頃から降り出して上醍醐寺では土砂降りに。

千頭山から音羽山山頂では当然何も見えず、霧に囲まれてえらく高い山に登ってきたような気分になる。

ここから下山、1号線を渡って長等山から滋賀県の長等公園へ。

そして小関越から疎水沿いに山科駅ゴール。

途中立ち寄ったローソンでは椅子と床を結構濡らしてしまい、帰り際に雑巾を貸してくださいといったのですが、こちらで拭きますからいいですよと笑顔で言われました。

内心複雑ながら、その節はどうもすみませんでした。

途中の大きな水たまりの真ん中をちゃぶちゃぶと駆け抜け、通行人から不思議な目で見られながら、大雨を満喫？しました。